

お米プロジェクト

目 標

- ・社会科での食料生産の学習と関連させながら田植え体験、稲刈り体験、脱穀体験を通して、米作りの工夫や努力について理解することができる。

育てたい力

- 一連の稲作体験を通して、米作りに関する細かな工夫や努力に気付き、農家の方々との触れ合いの中で米作りに対する思いを感じる力。
- 田植え、稲刈り、脱穀、炊飯体験を通して、工夫や努力について調べて考える力。

主な学習活動（社会科：9時間）

くらしを支える食料生産（6月）

- ・社会科「くらしを支える食料生産」の学習の導入として、主食である米の米袋調べを行った。
- ・米がどのような場所で作られているかを実感するために農園に行き、田植え体験をした。
- ・田植えの方法や道具、現在は機械で行っていることなどを考え、機械の効率化を実感することができた。



米づくりのさかんな地域（7月）

- ・社会科「米づくりのさかんな地域」の学習では、バケツ稲の成長を観察しながら、稲作の学習を進めた。虫が付いたり、風で倒れたり農家の方々の苦労を感じることができた。



これからの食料生産（9月）

- ・収穫の時期になり、新篠津村で収穫体験を行った。
- ・稲刈りや稲木に干す体験を行った。刈ってすぐに食べるのではなく、干したり、脱穀したり、もみすりをしたりと様々な工程があり、製品化されることを学んだ。
- ・パールライス精米センターを見学した。



取組を終えて

子どもの声（感想）

子どもからは、「初めて田植えをしたし、何より実際の田んぼに初めて入った。毎日食べている米がこんな風に作られていると思うと感謝したい気持ちになる。」「米作りを工夫しながら楽しんでいる島田さんに感動しました。」などの声が挙がった。

取組の成果

社会科の学習を中心に、米ができるまでの学習を、興味関心を持続させながら行うことができた。島田さんの米作りへの思いを知り、働く姿を見て、実感を伴う学習構成になった。

体験先、関係機関

島田農園（恵庭）